

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年6月12日 NO.21



ネムノキ (マメ科)

オー君 「うわあー！きれいなお花だなあ。」

花ちゃん 「このお花はね、ネムノキというのよ。学校のうら庭で、今たくさんのお花を咲かせているわ。そうですね。モンタ博士！」

モンタ博士「その通り。第七小学校は、国立市の小学校の中でも、特にいろいろな植物がたくさん見られる学校でよかったね。とってもいい色だろう。こういうのは白黒ではなく、ぜひ学校ホームページでカラーで見るといいよ。」

オー君 「きれいなお花だけど、ピンクに見えるのは、花びらなのかな。」

モンタ博士「あのね、オー君。ピンク色に見えるのはおしべの集まりなんだ。本当の花びらというのは、とても小さいんだよ。一カ所に10~20こほどの花が集まっているから、こんなにきれいなんだね。」

オー君 「ふーん。そうなんですか。ところで、どうしてネムノキというの。」

モンタ博士「それはね、葉っぱにひみつがあるのさ。ふつう、葉っぱはいつも開いたまんまだけど、このネムノキは、夜になると葉っぱが閉じてしまうのさ。」

オー君 「へえーそうなんだ。おもしろいやつだな。まるで、オジギソウみたいだ。」

モンタ博士「そうだよ。オジギソウと同じだ。あのね、モンタ博士は、本当かどうか、観察してしらべてみたんだ。それが、下の写真さ。」



ネムノキ 午後8時ころ撮影



ネムノキ 午前7時ころ撮影

モンタ博士「夜になるとね、葉っぱがねむるように閉じたりするので、それで、ねむっているようだから、ネムノキというんだよ。左の写真はね、夜8時ころのものなんだ。そして、右は朝、お日様がのぼった7時ころのものだよ。モンタ博士が撮影したものさ。」 (※芽吹きが他の樹木よりも遅く、いつまでもねむっているようだからという説もあり。)

オー君 「へえー。なーるほど。おもしろいものですね。おいらも見てみようっと。」

モンタ博士「これからの夏の夜には、マツヨイグサやカラスウリの花も咲くよ。ホタルもそろそろで、その他の虫の様子など、その観察を、いつやるかというね・・・。」

オー君・花ちゃん「今でしょ。」

(※マツヨイグサやカラスウリなどはもう少し後)

子どもと一緒に身近な自然を見つめてみませんか・・・。

信州大学の平野吉直助教授という人が、子どもの体験活動に関する調査を行った。それによると、「太陽が昇るところや沈むところを見たこと」がほとんど無い子どもが 35%。「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見ること」が無い子どもは 23%とある。保護者にも同じ調査を実施したところ、ほとんど経験がない親が前者で 11%、後者で 8%。その結果、親の世代と比べ今の子どもたちの自然体験が減少していることがわかる。

いつでも見られる平凡なもの…だから見ないのか。それだけだろうか？子どもたちが朝日や夕焼け、満点の星を見た経験が少ないのは、一緒に美しいと感じてくれる大人が、周りにいなかったからではないだろうか。忙しいのは子どもではなく大人の方で、夕暮れに子どもと一緒に沈む夕陽を眺め、「すごいなー」と語りかけるゆとりを大人が失ったからではないだろうか。子どもたちは、朝日や夕焼けを見る機会があったとしても、誰かと感動を分かち合った体験がないから、心に刻み込まれないのでは…？